

科研費基盤研究A「憲法および人権条約を接合する多元的・非階層的・循環的人権システム理論の可能性」研究会主催講演会
後援：明治大学比較法研究所

The Use of Foreign Precedents by Constitutional Judges

Prof. Tania Groppi

Professor of Public Law, Department of Business and Law, University of Siena

プロフィール：Groppi教授は、憲法裁判、連邦制、地方自治、憲法制定過程について比較研究を行うと同時に、比較憲法学に関する幅広い知見に基づき、イタリア憲法裁判所、イタリア外務省、ヨーロッパ評議会ベニス委員会等の法律顧問等を務めています。



日時：2018年5月14日(月) 17:10～18:50

会場：明治大学駿河台キャンパス

リバティ・タワー10階1106教室

***参加費無料(事前予約不要)**

http://www.meiji.ac.jp/koho/campus_guide/suruga/access.htm

司会：江島晶子(明治大学法学部教授)

使用言語：英語

憲法と国際人権条約の接合面を実証的に分析する試みとして、近年、盛んになっている「司法対話」(judicial dialogue)に着目し、その具体的形態の一つである、憲法裁判所・最高裁判所による外国法・判例法の参照について、比較実証研究を行っているGroppi教授をお招きして、司法対話の可能性と課題についてご講演いただきます。

問い合わせ先：明治大学グローバルフロント10階410L

江島晶子(明治大学法学部教授・科研費基盤研究A研究代表)

globalconstitutionalim@gmail.com